

高等学校芸術科では、教育基本法及び学校教育法に示された教育の目的・理念を踏まえ、未来社会を切り拓く生徒一人ひとりの資質・能力を一層確実に育成するため、「意図に基づいて表現するための技能の習得」、「創造的な表現の工夫を通じた芸術のよさや美しさの感受」、「生涯にわたる芸術を愛好する心情の育成を通して感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度」、そして「豊かな情操の育成」を目指してこれまで研究実践を進めて参りました。

そして、次期学習指導要領の趣旨にある「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」の視点から学習内容を見直し、授業における主体的・対話的で深い学びの視点からの学び方・指導方法の工夫や改善に取り組み、芸術科としての見方・考え方を働かせた学習の充実のための授業改善に取り組んでいるところです。

高等学校芸術科の学習は、豊かな情操を培うことが共通の目標です。芸術によって培われる美しいものや優れたものに接して感動する情感豊かな心(美的情操)は、美しいものやよりよいものに憧れ、それを求めているこうとする豊かな心や探究心を育てます。この豊かな心や探究心は、美だけでなく、より善なるもの、崇高なものを求める姿勢につながり、あらゆる分野に通じる生きる力です。そして生徒一人ひとりが真実を極めることによる文化的な成熟なくして真の学力や人間的成長は望みません。

今後、さらに科学が進歩しグローバル化が進むことによる予測困難な社会の変化に主体的に関わり、生徒たちが感性を豊かに働かせ、未来を創り、社会や人生をより良いものとしていくためにも、芸術は表現と鑑賞を通して自己の生き方を見つめ、自らを修正し高めていく姿勢、他者の生き方を認める姿勢を育み、生き方・在り方の追究につながるものと確信しています。

そこで、全日本高等学校書道教育研究会(略称 全高書研)では、芸術科(書道)の指導において「書が生活や社会とどのように関わっていくのか」「書はいかなる芸術なのか」を探究し、生徒たちが書の文化の継承と創造への関心を高め、書の文化に関する学習を通して豊かな情操を養い、感性を働かせた表現と鑑賞の相互関連を図り能動的な学習に取り組み、書への永続的な愛好心の育成へつなげるために研究を進めています。さらには、我が国の「言語文化」、「文字文化」、書の「芸術文化」に関する学習内容について広く捉え、長期的な展望をもった授業展開に向けて、中学校国語科書写との円滑な接続、さらには高等学校国語科との関連を踏まえながら、他校種との接続や教科等の連携を進めてまいります。

以上のことから、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習と指導の改善・工夫と、人格形成の実現に向けた高等学校芸術科書道の学習充実のため、次のことについて、格別な高配を賜りますようお願い申し上げます。